

平成28年度 事務事業マネジメントシート

事業名	初石駅施設整備事業			会計	項目	大事	小事
政策	01	1節 整備・開発と自然環境のバランスがとれた流山（都市基盤の整備）	主管課	都市計画課			
施策	1-8	利便性と快適性を重視した公共交通機関の整備充実	主管課長	長橋 祐之			

事務事業の目的・内容

事業目的	対象	初石駅利用者等	意図	初石駅利用者の利便性の向上を図る。
事業内容	東武野田線初石駅の現状に即した東口整備形態の協議を行う。			
事業開始から現在までの状況変化	T Xの開業後、初石駅は利用者数が減少傾向にある。また駅舎の橋上化や、それに伴う駅前広場整備、道路整備などを行った場合は高額な費用を要する。なお、平成20年度に跨線橋のエレベーター及び駅出入口にスロープが整備されている。			

事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
		便利だと感じている駅利用者の割合	69	66.80	66	%	↑↑↑
	1日平均乗降人員	17,673	17,440	18,019	人	↑↑↑	
指標で表すことができない定性的な成果	目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況）						
事務事業のコスト	平成26年度	平成27年度	平成28年度	目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況） ・初石駅利用者は、年々減少してきており、平成23年度からほぼ横ばいに推移している。 ・平成17年2月に初石駅東口用地として、駅東側の土地を購入している。 ・庁内関係課による駅施設のあり方等についての協議を行い、駅近隣地域住民及び商店会との意見交換を行っている。			
事務事業の総コスト(a=b+c)	3,109,500		2,059,500				
事業費(b)(円)							
うち一般財源							
職員給与費(c)(円)							
人役・職員(人)	0.45		0.30				
人役・再任用(人)							
人役・臨職(人)							
人役・嘱託(人)							
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）							
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）							

事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 < 主管課長記入 >

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	B 達成できなかった
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	拡 充 （事業を拡大して継続すべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

今年度(H28)の改善計画	庁内関係課と協議した結果を踏まえ、駅近隣地域住民及び商店会との意見交換会を開催する。	取組の課題	東口開設の方向性について、地域住民の意見集約を図る必要がある。東口開設と合わせた交通規制について検討する必要がある。
今年度(H28)に実施した取組	駅近隣地域住民及び商店会との意見交換会を開催した。	今後の改善計画	現在所有している市有地の範囲内で整備を検討し、地域住民等との合意形成を図る。